

令和4年度 第2回大阪府立泉鳥取高等学校 学校運営協議会 議事録

☆学校運営協議会次第

日 時：令和4年12月9日（金）15：00～17：00

場 所：大阪府立泉鳥取高等学校 A棟1階 会議室

1. 校長挨拶（5分）
2. 本校各部(委員会)よりの報告（各部3分程度 約20分）
 - ・進路指導部
 - ・生活指導部
 - ・自治会部
 - ・保健部
 - ・教育相談委員会
 - ・教務部
 - ・近況報告（教頭）

＜質疑応答＞

3. 協議事項（司会：学校運営協議会 委員長）
 - ①事務局からの報告を受けて、質疑応答
 - ②各委員からのご提言
4. 校長 挨拶
5. 諸連絡

次回 学校運営協議会

第3回 1月20日（金）

☆出席者

- ・学校運営協議会委員——5名
- ・学校運営協議会事務局員(教職員)——11名

☆議事内容

1. 各部（委員会）よりの報告

・進路指導部

近況報告 就職求人数は増加した。20社 複数応募可とする一人2社はいなかった。内定率は72%程度。二次は100%OK

進学は集約中 指定校推薦がほとんど

- **生活指導部**

生徒の数が減少、懲戒件数は例年になく少ない。エネルギーの低い生徒が増えたように感じる。嫌なことは避けるなど、モチベーションもエネルギーも低い生徒をどう導くのが課題。

- **保健部**

耳鼻科、眼科の健康診断　がん教育講演会を実施

- **教育相談委員会、支援教育委員会**

今年度より SSW を導入することができ、学校だけでなく福祉とも連携できるようになり、教育相談の幅が広がった。

支援を要する生徒も複数名在籍しているので、近隣の支援学校等とも連携しながら対応している。

- **生徒自治会**

体育祭　コロナ前の形で実施できた。天気にも恵まれ、生徒の参加率も非常に高かった。

文化祭　体育祭と同様にコロナ前と同様に実施できた。生徒たちも昨年度まで制限がある中、活動を自粛した形だったので、今年度は大いに盛り上がった。PTA の飲食物提供（フランクフルト）も実施。お祭り感を出すことができたのでよかった。

- **教務部**

令和 5 年度の使用教科用図書選定について経過報告。

資料の通り、教科書の選定を実施しましたことを、ご報告いたします。

- **3 年生**

入学式もなく、学校行事も多くの制限がある中で、今年度やっと学校全体で学校行事ができた。

- **2 年生**

大きなトラブルもなく無事に修学旅行を実施することができた。

東日本大震災の復興状況を見学し、東京散策等も実施できたので生徒たちも学びの多い修学旅行になった。

- **1 年生**

7 月に宿泊行事を実施。仲間づくりの一環として大きな成果が見られたが、夏休み明けに高校生活の緊張感が薄れてきたのか遅刻・欠席が増えた。今後進級も含め、きちんと基礎学力をつけれるよう、学習習慣が確立するようサポートしていく。

質疑応答、意見交流

協議委員（教育関係者）：部活動に関して何も報告ないのはなぜか？

生徒自治会担当：正直、運動部は2年前までは活発だったが、コロナの影響もあるかと思うが、昨年度の生徒が卒業してから部活加入率は一気に下がっている。陸上は1人、バスケ5人、バドミントン愛好会5人程度、サッカー部3人、ダンス部7人、家庭科部3人程度。

協議委員（教育関係者）：次年度、後輩が入ってこないから？

生徒自治会担当：入試制度が変わったため。運動部でも団体競技が一気に減った。中学1年から塾に入ることによって中学校での部活動経験が乏しいとりわけ集団競技は顕著である。中学校でも個人競技に人気が高まっていると聞いている。

委員長（学識）：他の教育現場ではどうですか？

協議委員（教育関係者）：高校1年生の生徒が中学校2年の時、分散登校、学校で登校したときに友達とどう話したらいいのか、分からなくなったりしている様子も多くあった。コロナの影響はとても大きい。学校現場も大幅に様変わりしてしまった。

校長：クラブの件、コロナの初期から高校でのクラブ加入率はガタッと下がっている。公立高校の場合は、学力レベルが高い学校は加入率が高い。ある程度学力に課題のある学校は加入率が低い。部活動大阪モデルも発表され、クラブを複数校で合併させる方針を打ち出したので、今後近隣の高校も一緒に部活動をやる形が出てくる。部活動を学校から切り離すような動きになっていくのかもしれない。

協議委員（保護者）：保護者目線では、コミュニケーションが取れていない生徒が多いというより、行事ができていなかったからではないかと思う。今回、体育祭・文化祭などの学校行事で頑張ろうとする中で、コミュニケーションが生まれてきた。子どもたちが校長・教頭とも気軽に話ができる学校の雰囲気がとてもありがたい。話は変わるが、近隣の信号を赤信号でも渡っているところを見かけることがある。交通事故も心配。

委員長（学識）：大阪市内では随分そういった場面は減っているように思う。しかし、安全性の問題は重要である。

協議委員（社会福祉）：改めて、いい高校、数値的な伸び、数字で見られない支援教育、教育相談対応されている。確認したいのは、泉鳥取が金融教育モデル校としてどのような活動をしているのか？

教頭：金融広報委員会、実は日本銀行大阪支店が事務局を担っており、多くの金融教育に関する教材を開発されている。本校でも一人住まいのコストや多重債務問題の教材を活用している。最終的には今の1年生が2年生になったとき、改めて日本銀行大阪支店の見学を含む金融見学会を予定している。

協議委員（地域企業）：行事を楽しめる子はいいのだが、そこに入りきれない子どもも複数名いると思う。そういう生徒のサポートは？それと再編整備の取組みは？

教 頭：行事や学校生活での生徒対応は、担任・学年団で手厚く行い、生徒の居場所づくりも意識的に工夫して行っている。

再編整備に向けての取組みとは違うかもしれないが、学校はなくなっても何か生徒の心に残ることができればと考えている。1つにマスメディア（テレビ番組等）に申し込むなどしている。

また一部の生徒にはなるが、現在は阪南市のインターネット TV に生徒が参加しており、企画や撮影、プレゼンターとして参加している。

教 頭：再編整備の取組みとしては、泉鳥取高校の卒業生が返ってくる場所として、情報誌『我らの泉鳥取』を発行しており、あと2年取組んで100号を目指している。

在校生には、簿記検定や漢字検定など何か資格（社会で武器となるようなもの）を持たせて卒業させたい。

委員長（学識）：バーチャルでも帰る場所は重要。友人にも母校がなくなったり、会社がなくなったりした人もいる。そういった場合ある意味でアイデンティティのロスにつながる。母校がなくなるということは1人の人間だけでなく大きな影響になると考えられる。同級生や関係者との通なかりも希薄になっていくのではと、気になる。

ちなみに観光大学では「日本一の観光大学」をスローガンに圧倒的にコミュニケーション能力の育成を重視している。人相手の産業構造を学び、いかに人間関係を結ぶかが重要であるということを学生たちに学ばせている。

東京大学燃え尽き症候群しかり、コミュニケーション力の低下、人間にとって何が大事なのか？「人と共に楽しむ力」を体験してほしい。

引きこもり100万人など社会的な問題となっている。1人が悪いことではないが「つながり」も大事である。「今ここ主義」では済まない。大きな視点で考えていかないといけない。

校長挨拶

校 長：たくさんのご意見、ありがとうございます。

「人と共に楽しむ力」、これは今年度、学校行事等で生徒たちから見せてもらうことができた。

最後の生徒たちに対して、何ができるのか少しみえてきたような気がします。

長時間の協議、ありがとうございました。

次回、第3回学校運営協議会 令和5年1月20日（金） 実施予定